

年頭所感

～飛竜乗雲 好機を掴む～



東大阪商工会議所
会頭 濱谷 和也

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は会員の皆様並びに関係機関の皆様には東大阪商工会議所の運営に一方ならぬご理解とご支援を賜り、誌上ではございますが、厚くお礼を申し上げます。

さて、長きにわたり私共の生活に制約を加えておりました新型コロナウイルス感染症は、昨年5月に5類に移行したことから、活気のある社会が戻って参りました。

しかし、原材料価格の高騰に加え、世界的な金融引き締めに伴う円安の進行や地政学的リスクはエネルギーをはじめとする諸物価の高騰につながり、実質賃金との調整という側面から賃上げをも迫られていることから、中小企業においては収益確保のために多大なる努力が求められています。

このような状況下、本所では、市域中小企業の皆様の資金繰りをはじめ、直面する経営課題解決に向けて伴走支援に努めて参りました。また、行動制限が解除された後、初めての開催となりました東大阪産業展「テクノメッセ東大阪2023」は商機獲得の大いなる期待を集め、過去最大となる出展規模で開催することができました。おかげをもちましてコロナ禍前を上回る9,254人の

ご来場を賜り、モノづくりの街東大阪の真骨頂である高度な技術と独創性あふれる製品、いわゆる「技」と「知恵」を存分にアピールできたものと自負しております。

この熱気が冷めやらぬ中、令和6年を迎えましたが、本所と致しましては、めまぐるしい変化を好機ととらえて一段と飛躍する本市中小企業を応援するため、一層深化した各種支援策を展開致します。

その1つ目は、地域製造業におけるデジタル化のボトルネック解消です。

本所の調査によりますと、経理処理などの分野でIT化は進んではいるものの、IoTの導入などITの複合的な活用は一部に留まっており、デジタル技術を活用したビジネスモデルの変革いわゆるDXへの取り組みは道半ばと思われれます。その主な要因としてデジタル人材の不足が挙げられています。このことから、本年はデジタル化推進の中核人材育成に取り組みとともに、各社の課題解決に向けて専門家を派遣するなど、デジタル化を阻む問題解決に向けて一歩踏み込んだ支援を展開致します。

2つ目は地域中小企業の脱炭素化推進への支援です。

世界的にグリーントランスフォーメーションが注目される中、脱炭素化に向けた取り組みは、サプライチェーン全体で取り組むことが潮流となっています。わが国産業を根底より支える本市中小企業もその一翼を担うため、脱炭素化は避けることのできない経営課題となっています。現在、本所では地域における現状調査と共に、啓発活動に注力しておりますが、今年はこの調査結果を受けて、各社の課題解決に対して専門家を派遣するなど、本市中小企業が脱炭素化への動きを好機ととらえて動き出せるよう支援を強化致します。

3つめは恒常的な販路拡大への取り組みです。本所では産業展や逆見本市、専門見本市への共同出展など、各種展示会により製造業の販路開拓を促しておりますが、継続的な支援が必要不可欠であることから、今年モノづくり企業各社の製品・技術・設備などの詳細情報を集約した取引ガイドブック「もうかりメッセ東大阪」を5年ぶりに改訂し、冊子の発刊と共にWEB上で情報公開することで、本市製造業の販路拡大につなげて参ります。

4つ目は、環境変化を好機と捉えた事業者への支援です。

ポストコロナ時代において、様々なイベントの再開やインバウンド需要の回復などにより消費行動が活発化しています。2025年4月開幕の大阪・関西万博による人流の増加も期待されるところであります。その波及効果を商機とするためにキャッシュレス決済の普及など備えるべきことは少なくありません。よって商業活性化の支援を行政に要望すると共に、各種補助金活用などハンズオンによるきめ細やかな支援を推し進めます。

本年の干支である甲辰（きのえたつ）、甲は優勢を、辰は万物が成長し動きが盛んになることを象徴することから、成功という芽が成長し形を整えていく年といわれます。

コロナ禍という長いトンネルを抜けて、自由闊達に行動できる今こそ変革の好機と捉え、飛竜乗雲の勢いで新たな時代を切り拓いて参りましょう。今年が、会員の皆様に取りまして一層のご繁栄と、地域産業発展の年になりますように全力を傾けてまいりますので、本商工会議所への一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。